



上尾の児

埼玉県立上尾特別支援学校

平成30年6月18日

「人に問うて自分に問う」

教頭 久保田 博

学校には毎年、小学校または中学校の教員免許を取得する学生が介護等の体験に来ています。今年度第1回目の介護等の体験が6月5日～6日の2日間の日程でおこなわれました。今回は18名の大学生が上尾特別支援学校に来て体験をおこないました。

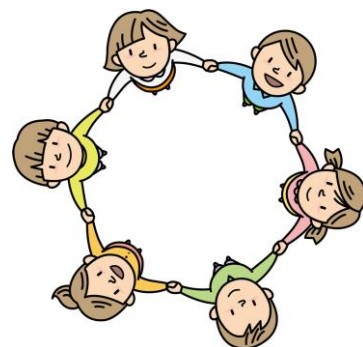
1日目のオリエンテーションでは介護等の体験の目的、教員としての資質、学校教育の一層の充実、特別支援教育、そして今回の介護等の体験に臨む意識等について校長より話をしました。特にこの2日間はこれからの教員免許取得に向けた貴重な2日間となるので、無駄にしないでほしいと伝えました。

体験生には1日目、2日目の授業補助体験終了後に感想を書いてもらい、2日目の授業補助体験終了後の教頭講話の中で、簡単に感想を発表してもらいました。体験生それぞれに感じる場所があったようで、今まで言葉だけで感じていたりイメージしていたこととは違い、子供たちと一緒に過ごしているとそれぞれに個性があり、魅力的な子供たちばかりで、成長する姿と一緒に喜びあえることが素敵だと話してくれました。教頭からはいろいろ体験して感じることは大切で、そこから自分なりにしっかりと学び取ってください、また**学ぶ姿勢を持って**体験してください。そして自分の頭の中や心の中で感じたことを整理してこれからの**教員としての資質向上**に活かしてくださいと話をしました。



また学校は教育の場であり、児童生徒たちとどんなにかかわり方が必要(大切)なのだろうかと問いかけました。介護等の体験の「介護等」という言葉をそのまま受け取って「介護だから〇〇してあげなければいけない」というような感覚で児童生徒にかかわることは間違いですとはっきりと伝えました。介護施設でも学校でもそうですが、自分はしてあげる方で、相手はしてもらおう方といったような相手を下に見るような意識で接してはいけません。かかわりは「人」対「人」です。かかわる**相手の人権を尊重する意識と態度**が大切ですと伝えました。

新聞を見ると、過去あれだけ騒がれているのに、いまだに教員の不祥事や不適切な指導、体罰といった記事が時々見られます。そんな記事を見ると非常に残念な気持ちになります。私たち上尾特別支援学校は介護等の体験生や教育実習生を受け入れるときには上記にあるような話をしていきます。これからの教育界を担っていく若者をしっかりと育てていきたいと思えます。と同時に、自分たちにも同じ問いかけを行い、自ら襟を正して仕事をしていく必要があると感じています。



第39回運動会の様子

小学部 「みんなでいれよう！あかしろたまいれ」

子どもたちのわかりやすさ、勝ち負けの明白さなどの理由から小学部競技の風物詩となっています。はじめて参加した1年生も、もう6回目になる6年生も、サポートした先生たちも心は一つにチームの勝利を目指してがんばりました！勝ち負けがついて「うれしさ」「くやしき」を味わいましたが、みんなで力を合わせて666個ものカラーボールを楽しみながら全部入れられたのがなによりでした。温かい応援ありがとうございました！



中学部 「一球入魂！ストラックアウト」

学部種目、「一球入魂！ストラックアウト」では例年以上の熱戦が繰り広げられました。赤白3チームずつによる対抗戦が行われ、第1試合では赤組が優勢でしたが、第2試合、第3試合と白組が怒涛の追い上げを見せました！第3試合までの射貫いた合計枚数で勝敗が決まる戦い、相手よりも多くの的を射貫いたのは…72対70で赤組の勝利！赤組、白組もチームワークの良さを存分に発揮し、力を合わせて戦うことができました。手に汗握る熱い戦いに声援を送っていただき、ありがとうございました！



高等部

高等部では、徒競走、リレー、組体操の3種目を行いました。徒競走では、自分自身の力を十分に発揮して競い合いました。リレーでは、チーム一丸となって優勝を目指しました。組体操では、お互いに支えあい、一つの技を作り上げました。どの競技、演技においても生徒一人ひとりが輝いて取り組む姿が素晴らしかったです。

